

## 臨床研究「心炎を伴ったリウマチ熱の臨床経過と予後」について

筑波大学附属病院小児科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

- ① 研究対象 1994年1月から2020年1月にリウマチ熱と診断された小児
- ② 研究の意義・目的・方法 A群  $\beta$  溶血性連鎖球菌(以下溶連菌)の早期診断と抗菌薬の普及によって、現在の日本において小児科医が急性リウマチ熱の診療に関わることはまれとなりました。世界的にみても、リウマチ熱による死亡は1995年から2015年にかけて半減していますが、しかし、死亡率の改善は心不全治療や弁置換術の進歩によるところが大きく、リウマチ性弁膜炎の進行を予防する有効な抗炎症療法は確立していません。重度の弁逆流に至った例では弁置換が必要となるため、早期診断による再発、重症化予防が患者の予後改善のために重要です。リウマチ熱の発症頻度が低下し、同じような症状を訴える病気が多く発見されるにつれ、現在の日本でリウマチ熱を早期に診断することは難しくなっていると言えます。本研究では当地域で診療された弁膜炎を伴うリウマチ熱のお子さんの診断契機、症状、治療内容、経過と予後をまとめ、特に弁膜炎の臨床経過、管理と予後について検討します。具体的な方法は、1994年1月から2020年1月に当院、及び筑波大学附属病院に入院し、リウマチ熱、リウマチ性弁膜炎と初めて診断されたお子さんの、発症時の症状や、診断されたきっかけ、検査結果や治療内容、転帰等について、診療録を用いて後方視的に調査を行います。研究期間は2021年3月31日までです。本研究によって、日本におけるリウマチ性弁膜炎の患者さんの、より適切な診断と治療を提供できるようになることが期待されます。
- ③ 研究機関名・研究者名  
筑波大学附属病院（役割）データ収集、匿名化、解析、発表  
研究代表者：堀米 仁志（小児科）  
茨城県立こども病院（役割）データ収集、匿名化、筑波大学附属病院への提供  
研究代表者：林 立申（小児循環器科）
- ④ 試料情報：血液検査データ、エコー検査データ、診療記録  
試料情報責任者：筑波大学附属病院
- ⑤ 保有する個人情報に関する利用目的 収集された情報は、今後の小児循環器医療の向上の目的以外には決して使用されることはありません。
- ⑥ 保有する個人情報の開示手続 情報の登録は、紙媒体およびパソコン上で行われますが、患児やご家族の個人的な事柄（氏名、住所等のプライバシー情報）に関する個人情報は一切含まれず、全て番号（識別番号）で登録されます。したがって、提供された情報の個人が特定されることはありません。

⑦ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

電話：029-853-5635 FAX：029-853-8819 対応時間：平日 9 時～16 時

所属・担当者名：小児科 石踊 巧